

県 広 報

とやま

特集/人口問題を考える

TOYAMA PREFECTURAL REPORT



楽しみながら薬草に親しむ

富山県薬用植物指導センター

レポーター:富山大学 井手口恵美さん
(表紙の人)



5月下旬からが見頃のシャクヤク園



香りを楽しめる薬用植物

ハーブ園



生薬標本や薬草酒の展示

薬草は古くから人々の生活の中で、病気の治療や健康維持のために用いられてきました。今回私が訪れたのは、そんな薬用植物の栽培・普及を図るために設置された富山県薬用植物指導センターです。ここでは、様々な薬用植物について栽培・加工方法の研究、生

薬の品質検査などを行っているほか、種苗を栽培農家に供給したり、栽培や加工に関する研修会や技術指導も行っています。さっそく、センターの村上さんに本館を案内してもらいました。ここには、百七十種類にも及ぶ生薬標本や、薬草酒などが展示されていて、自由に見学することができます。温室では、熱帯・亜熱帯の植物約五十種類を栽培。なかには、葉がレモンやカレアの香りがする植物もあって、とても不思議な感じがしました。野外には、香辛薬草を栽培しているハーブ園があります。ひとくちにハーブといってもその種類は様々で、ここに植栽されているもの

だけでも約百二十種類。これらの香りを嗅ぐだけでも楽しいものです。そして何といってもこの見どころは、シャクヤク園とボタン園。私が訪れたときはボタンが美しい花を咲かせていましたが、この広報紙がでる六月初旬には、シャクヤク園が見頃となっているでしょう。このほか、薬用樹木林ではちよっとした散策を楽しむながら、それらの薬効などを知ることが出来ます。普段よく目にする植物にも色々な薬効があるのは、正直いって驚きました。みなさんも一度訪れて、薬草に関する知識を深めてみませんか？

二十九枚の帆に

夢を託して

INTERVIEW

ひとアズとやま

海王丸展帆ボランティア 阿部江里子さん

昨年三月に富山県での恒久係留が決まった、海の貴婦人「帆船海王丸」。年間十回ほど行われる総帆展帆は展帆ボランティアの方々によって支えられています。阿部江里子さんは、富山に海王丸が係留された平成二年以来ずっとこの活動に参加してきた一人。「大学卒業間近の頃に展帆ボランティアの募集がありました。小学校の教員に内定していた私は、子どもたちに教育していくうえで何か役立つものがあるのではないかと、応募したんです。」

初展帆の直前には、毎週のように訓練が行われたとのこと。「展帆のことは何も判らないうえ寒くて、訓練はきつかったですね。その時のことは今でも第一期メンバーの間で語り種になっていきます。」展帆作業で、ときには四十六メートルのマストの頂上に登ることもあるという阿部さん。「昨年は、マストのうちの一本をレディースマストとして、女性のメンバーだけで展帆しました。最高の気分でしたね。」教員になって二年目の春、阿部さんは生徒たち

を連れて海洋教室に参加。海王丸に乗り込んだ子どもたちは、実際に小さな帆をあげたりヤシの実で床磨きをしたり、大喜びだったそうです。「この教室に参加することで、海王丸を自分たち県民の船として身近に感じてくれたようです。この子どもたちが将来、展帆ボランティアに参加してくれたら嬉しいですね。」また阿部さんは、この活動に参加するようになってから自身自身のネットワークが広がったといいます。「山好きのメンバーの影響で、私も最近登山をするようになりまして。世代や職業を越えていろんな人と付き合うのは、視野が広がって本当に楽しいですよ。」これからは展帆活動を続けていきたいという阿部さん。「とてもやりがいがありますから、若い方にぜひ参加してもらいたいんです。帆を張り終え、見物のお客さんから拍手がわき起こったときは感動しますよ。」阿部さんをはじめ展帆ボランティアのみなさんの活動によって、これからは海王丸は二十九枚の帆を装ったその美しい姿を私たちに披露してくれることでしょう。



6 CONTENTS

6月号もくじ

とやま遊学感	表紙
富山県薬用植物指導センター	2
ひとアズとやま / 阿部江里子さん (海王丸展帆ボランティア)	1
クローズアップ /	
① 県立中央病院新診療棟竣工式	8
② 全国都市緑化「やまフェア」	4
みつばちキャラバン隊出発式	
③ 利賀・新緑はるのフェスティバル	10
特集 / 人口問題を考える	
PINUP TOYAMA	
写真 / 谷川昭夫 (富山県写真家協会会員)	8
詩 / 山本哲也 (富山現代詩人会会員)	10
ふるさとみてある記 (城端町)	
① 城端町史館「蔵回廊」	12
② 桜ヶ池公園「自遊の森」	13
③ 寿野球	14
エッセイ 桃野真晃 (富山県埋蔵文化財センター所長)	16
富山県における主要プロジェクト	
第11回国民文化祭とやま'96	13
県からのお知らせ	
暮らしのアドバイス	14
とやまの祭事記「ひとつやいと」 (高岡市)	表3

4/28~5/14

広がる舞台芸術の世界

利賀・新緑フェスティバル'95

この催しは、日本の若手による新しい現代劇の演劇祭で、利賀村を本拠地とする劇団SCOTが計三本を上演したほか、花組芝居、山の手事情社など六つの劇団が新作を披露しました。また現在活躍中の演出家四人でつくる「P4」によるシンポジウムでは、普段舞台上では見ることのできない、動作・声・雰囲気の出し方など独自の演出方法を公開。観客は興味深そうに見入っていました。

利賀村では、一九八二年から毎夏世界演劇祭「利賀フェスティバル」が開催され、世界の演劇ファンに広く知られるようになり、昨年夏、冷暖房完備の合掌作りの劇場「新利賀山房」が完成したことに伴い、秋には「利賀紅葉フェスティバル'94」及び「舞台芸術祭・利賀'94秋」が開催されました。

今回、この利賀・新緑フェスティバルが加わることで、春・夏・秋と演劇祭や舞台芸術祭が繰り広げられることとなり、舞台芸術の世界がここ利賀村から国内外に広く発信され、ますます注目を集めていくことでしょう。



▲会場に向かう人々

演劇祭で知られる利賀村の「富山県利賀芸術公園」で、四月二十八日から五月十四日まで、「利賀・新緑フェスティバル'95」が開催され、県内外の演劇ファンを楽しませました。

4/20

県民に信頼される病院を目指して

富山県立中央病院新診療棟竣工



▲診療棟内を見学

富山県立中央病院の新診療棟の竣工式が、四月二十日、中沖知事をはじめ関係者約二百名が出席して行われました。

式では、テープカットにより完成を祝った後、中沖知事が、「待たせない外来など、患者本位の病院となるよう配慮した」とあいさつ。また、病院を代表し館野院長が「施設、設備面はもちろん、運営面でも全職員力を合わせて最善を尽くしたい」と述べました。

今回完成した新診療棟は、地下一階、地上五階建て。中央部には、来院者の交流の場「ふれあいプラザ」の広々とした空間が広がります。また、左右にはリハビリテーション・手術・検査などの各部門からなる中央診療棟と、内科・和漢診療科など十八の診療科を擁する外来診療棟を配置しています。

また、カルテ自動検索システムの導入などによる診療・検査・調剤・会計の一元化により、「待たせない外来」の実現を図ったほか、最新の医療設備も整備されました。

この新診療棟完成を契機に、二十一世紀へ向けた本県の医療体制がより充実していくものと期待されます。



▲新診療棟の外観

4/28

とやま緑化祭の成功に向けて

みつばちキャラバン隊出発式



▼マスコットの「トミイ」と記念撮影
藤の木幼稚園の園児たち



▲中沖知事から今井隊長にメッセージを伝達

カーやステージカーなどに分乗し、さっそくPR活動に出発。今後、県内外の市町村役場やイベント会場などでキャンペーン活動を繰り広げる予定です。

全国都市緑化とやまフェアの開催まであと一年と迫った四月二十八日、そのキャンペーンキャラバン隊の出発式が県庁前公園で行われました。

まず、同フェアの実行委員会会長の中沖知事が、「富山県の特徴を活かした夢のある会場づくりに努めている。会期終了まで長時間に渡るが、キャラバン隊の皆さんには緑化祭の成功に向け頑張ってもらいたい」とあいさつし、同隊を「みつばちキャラバン隊」と命名。県警音楽隊によるフェアのイメージソング「いつまでも」の演奏に引き続き、マスコット「トミイ」や、キャンペーンガールを務める県内のミス十六名が紹介されました。その後、同隊の今井隊長が「緑化祭が県内全域で花開き、大成功するよう全力で活動することを誓う」と決意表明を行いました。

一行は、キャンペーン



▲キャンペーンに出発する「みつばちキャラバン隊」



県政の動き

平成7年4月11日～5月10日

- 4月13日 平成7年度富山県婦人週間のつどい
- 4月14日 「ウラジオストクNOW」展（～20日）
オフィシャルカディア設立総会
- 4月20日 富山県立中央病院新診療棟竣工式
- 4月23日 統一地方選挙
- 4月28日 第13回全国都市緑化とやまフェア みつばちキャラバン隊出発式
利賀・新緑フェスティバル'95（～14日）
- 5月3日 立山山麓グリーンドキュメント（～7日）
- 5月7日 「看護の日」ふれあいトーク
帆船海王丸総帆展帆
- 5月8日 春の叙勲伝達式
- 5月9日 参議院地方分権特別委員会富山公聴会
- 5月10日 「とやま賞」贈呈式

若者が「住みたい」富山の創造

『特集』
～人口問題を考える～

毎年、経済企画庁から発表される『新国民生活指標』をはじめ、民間機関などが発表する多くの指標において、富山県は最も「住みよい」県のひとつとされています。

これらの結果だけを見れば、多くの人が富山に集まるように思われますが、実際の人口増加はわずかであるばかりか、全国よりも早く人口減少に転ずると予測されています。

県では人口問題懇話会を設置し、この問題について幅広い見地から意見を求め検討を重ねてきました。このほどその中間報告が取りまとめられました。ここでは、この報告をもとに人口問題について考えます。



▲昨年の人口問題シンポジウム（入善町）

富山県における人口減少の原因

厚生省人口問題研究所の推計によると、日本では西暦二〇一〇年をピークに本格的な人口減少の時代が到来するとされ、今や人口問題は全国的な課題です。特に富山県では、人口千人あたりの出生率が八・七と全国の九・六よりも低く、全国に先んじて減少に転じると予測されています。（表1）

ただ、合計特殊出生率（一人の女性が平均して何人子どもを生むかを示す数値）は、全国では一・四六であるのに対し富山県は一・四九とやや高くなっています（平成五年度数値）。つまり、本県の出生率が低いのは、女性の生む子どもの数が少ないからではなく、子どもを生み育てる若い世代が少ないことによるといえるでしょう。

県外へ流出する若者たち

富山県の場合、県内の高校を卒業後、大学・短大に進学する者のうち、七四・二パーセントが県外への進学となります。（表2）

さらに、いったん県外に進学した者のうち県内に戻って来るのは半数以下です。人口問題を考える場合、少子化対策としての「子どもを生み育てやすい環境づくり」とともに、このような若者の流出がなぜ起きるかを考えなければなりません。

若者の持つ富山への意識

県が二十代の社会人を対象に実施した「富山に対する意識調査」の結果、県外に住む富山出身の若者は「働く場」の不足を、県内に住む若者は「遊ぶ場」の不足を不満点としてあげています。また「学ぶ場」に



▲第1回Uターンフェア・イン・とやま



ついても、その選択肢の狭さなどに不満を抱いているようです。以下、これら各々について具体的にどのような不満を持ち、それらに対してどのような施策がなされるべきかを考えます。

魅力ある職場の確保のために

(1) 若者にとって魅力ある職場とは？

先述の意識調査によれば、若者は富山県内の産業に対する不満として、娯楽・レクリエーション・リゾート産業などの対人サービス業、広告デザインなどの感性重視型産業、先端技術・研究開発などの頭脳集積型産業、そして上場企業や大企業の支店などの安定企業の不足をあげています。つまり、これらが若者にとって魅力ある職種だともいえるでしょう。

確かに、産業構造を石川県と比較した場合、相対的に第三次産業のウエイトが低く、先端的サービス産業（情報、人材育成等のサービス産業）の集積度も、

(2) 「働く場」確保のための施策

富山市より金沢市の方が高くなっています（表3、4）。しかし、株式公開企業数、従業員三百人以上の大企業数ともに石川県を上回っており、意識調査に現れている若者の認識が必ずしも正しいものではないことが分かります。

これまで県では、富山テクノポリス計画、頭脳立地計画などの推進、オフィスアルカディア構想、八尾中核団地の開発などの企業立地の推進のほか、様々な融資制度により、企業誘致・起業育成を図ってきました。また、Uターン情報センターの設置、Uターンフェア・イン・とやまやTOYAMA就職ガイダンスの開催など、各種Uターン施策も行っています。

今後は、これらの施策をより充実させるとともに、対人サービス業や感性重視型産業に対する県民の理解を深めるような啓発活動を行い、これらの産業に対する需要の掘り起こしや育成支援を行っていくことが必要です。また、人材の確保については、単なる求人情報の提供にとどまらず、住宅・教育などその土地で生活していくために必要な情報を付加していく

＜表1＞ 将来人口推計 (単位：千人)

	平成2年	7年	12年	17年	22年
富山県	1,120 100.0%	1,114 99.4%	1,109 99.0%	1,104 98.5%	1,089 97.2%
全国	123,611 100.0%	125,463 101.5%	127,385 103.1%	129,346 104.6%	130,397 105.5%

資料：厚生省人口問題研究所「都道府県別将来推計人口」
(平成4年10月推計) 下段は、平成2年を100とした指数

＜表2＞ 進学地の比較 (単位：人)

	短大・大学 進学者	県内への 進学者	県外への 進学者
富山県	7,072 100.0%	1,827 25.8%	5,245 74.2%
石川県	7,609 100.0%	3,810 50.1%	3,799 49.9%

資料：文部省「学校基本調査報告書」

＜表4＞ 先端的サービス産業比較 (単位：事業所)

分野	富山市	金沢市	差
情報関連サービス	78	129	△51
知識関連サービス	32	86	△54
人材育成関連サービス	20	42	△22
技術関連サービス	5	2	3
物品賃貸関連サービス	45	67	△22
その他	20	28	△8

資料：総務省「事業所統計調査報告書」(平成3年)

＜表3＞ 県内総生産 (単位：人)

	富山県	総生産			
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	
総生産	富山県	4,159	83	1,772	2,452
	石川県	4,083	76	1,428	2,756
	全国	463,608	8,926	173,290	310,377
構成比	富山県	100.0%	2.0%	42.6%	59.0%
	石川県	100.0%	1.9%	34.9%	67.4%
	全国	100.0%	1.9%	37.0%	66.2%

資料：経済企画庁「県民経済計算年報」(平成6年版)

知ってほしい! 郷土の素晴らしさ



中村仁美さん (入善町在住)

私は、横浜市から入善町に越してきて1年半になります。ここは想像以上に素敵なおとこでした。豊かな自然、安くて美味しい食べ物、犯罪が少なく平和な生活、立派な文化施設、そして広い家……。いい企業もたくさんあります。また文化にも力が入っていて、越してきた当初は、優れたアーティストがよく来県することに驚いていました。

それなのに富山の人々は郷土に不満を持っているようです。自らの郷土を「何もなつまらない所」と評する人々もよく見受けま。富山のことをほめると、口がうまい人だと言われました。謙虚さから来るのかなとも思いましたが、そうとばかりも言えないようです。もちろん、そんな考えの人々ばかりではありませんが、なぜ富山に若者が定着しないかを考えた場合、私には県民の郷土に対する意識が原因の一端をなしていると思えてなりません。「自分たちの故郷はつまらない所」と思っている親に育てられた子どもが、果たして富山にずっと住み続けようと思うでしょうか。

いま大事なのは、次世代を教育する人々の意識変革だと私は思います。例えば、都会人の目で見れば、雪が降るのは不便のひとつで片づけられますが、春以降雪解け水が豊かな水系をつくりだしていることを考えれば、むしろ感謝すべきことだと思いませんか。

富山のような自然の豊かな美しい土地では、創造性豊かな人が育ちやすいと思います。ここで生まれ育った優れた人材が、自分の郷土を愛し、郷土とともに発展するのが理想です。そのためにも、県民自身が郷土から受けている恩恵を感じ、その素晴らしさにもっともって誇りを持ってほしい。そして、間違ってもつまらない土地に住むつまらない人間などという考えは捨ててほしい。私はそう思うのです。



への低い評価につながり、これが、ひいては対人サービス業や感性重視型産業など若者にとって魅力ある職場の形成を妨げる一要因になっているとも考えられます。

また、「旅の人」という言葉に象徴されるように、外部の刺激に対して閉鎖的な精神風土は、異質な刺激にふれようとする意欲や発想を妨げています。さらに、「目に見えないモノ」には支出しても「目に見えないサービス」には支出しないという県民性は、遊びや文化に対する社会的評価を鈍らせているといっても過言ではありません。

(3) 交流の促進と集積をめぐる論議の必要性

富山県の精神風土は豊かな富山を築いてきました

が、その一方で物質的な豊かさを当たり前なものとして育った若者の指向とはかけ離れたものといえます。これが結果として若者の交流と定着を阻害する原因になっているという恐れもあるのです。

今後は、県民ひとり一人が多様な価値観を認めることが必要ですが、これは異質な他者との交流を通じて可能になります。そのためには、県民が自らのうちに外部からの人を受け入れ、もてなそうとする心を醸成することが大切だといえるでしょう。

また、こうした交流の促進とともに、賑わいの核に必要な高次都市機能の中心都市への集積をめぐる問題についても、県民の間に幅広い論議の展開が求められるでしょう。

結びにかえて

若者の定着の促進を図るための施策が、郷土に若者を引き留めようとする。若者困り込み運動」になってはいけません。むしろいったんは県外へ出て外から富山を眺め、再び富山に戻って活躍するとともに、県外の若者も富山に入り活躍し、若者どうしが交流できるようにするための施策が求められます。一方、若者も郷土のことを十分に知らずに、ただ憧れだけで都会に目を向ける傾向はないでしょうか。これからは、県民一人ひとりが「住みよい富山」から「住みたい」富山となるよう、広くこの問題について論議を深め、ともに考えていくことが大切です。

〈表5〉 商業集積比較

	市全体		中心地域		中心商店街	
	富山市	金沢市	富山市	金沢市	富山市	金沢市
商店街数 (指数)	37 (100)	49 (132)	20 (100)	12 (60)	4 (100)	5 (125)
商店数 (指数)	1,839 (100)	2,709 (147)	1,183 (100)	1,201 (102)	437 (100)	866 (198)

資料：通産省「商業統計表」(平成3年)「立地環境特性別統計」より作成
(注) 中心地域：富山市、金沢市の域を中心とした半径1km以内の地域
中心商店街：富山市は、総曲輪、西町、中央通り、上本町、108の各商店街
金沢市は、武蔵、近江町、香林坊、片町、聖町の各商店街



賑わいのある遊び場など 都市機能の充実のために

(1) 若者の求める「遊ぶ場」とは?

経済企画庁の「新国民生活指標(平成7年度)」において、富山県は「遊ぶ」分野で全国第二位の評価を受けています。これは、自然公園面積の広さ、劇場・音楽会場の多さが反映されたものですが、若者にとつてあまり実感できない結果であるのも事実です。

若者が「遊ぶ場」に対して持つ不満として、「商店街の閉店が早い」、「食事や娯楽の場、行楽地が少ない」、「デパートや商店街の雰囲気や商品構成の魅力の無さ」、「交通機関の不便さ」などがあげられますが、これらはいわば刺激に満ちた都会的な「遊ぶ場」に対する不満であるといえます。

(2) 「遊ぶ場」の充実のための施策

また、若者が魅力を感じる都会的な「遊ぶ場」とは、まさに高次都市機能の集積を意味します。商業集積という観点から富山市と金沢市を比較すると、金沢市は富山市に比べ中心商店街への集積が見られ、これが街の核となつて賑わいを創り出しています。(表5)

県ではこれまで、商店街活性化の支援のほか、新川文化ホールをはじめとする文化施設、余暇施設、体育施設などの整備を行ってきました。さらに、とやま都市MIRA I計画をはじめとする都市拠点整備



が、その一方で物質的な豊かさを当たり前なものとして育った若者の指向とはかけ離れたものといえます。これが結果として若者の交流と定着を阻害する原因になっているという恐れもあるのです。

「遊ぶ場」の確保のために

(1) 「遊ぶ場」に対する若者の不満

新国民生活指標によれば、富山県は「遊ぶ」分野で全国第二位の評価を受けています。これは、人口当たりの図書館数や博物館数、成人一般学級受講者数などが反映されたものですが、大学などの高等教育機関に魅力のあるものがないと感じている若者も多く、ここでも若者の意識との食い違いが見られます。また、進路先など世間体を重んじる県民性や受験重視の教育システムを嫌う傾向もあるようです。

(2) 魅力ある「遊ぶ場」の創出のために

県ではこれまで、県立大学の施設や私立大学の誘致・助成を行うとともに、全国に先駆けた県民生涯学習カレッジの開学などによる生涯学習基盤の充実に努めてきました。

しかしながら富山県においては、高等教育機関のキャパシティそのものが小さいこと、理工系に学部構成が偏っていることなどの問題点があります。今後、即効性のある施策として、首都圏等の既存の高等教育機関の地方への移転の働きかけや、医療福祉系や芸術系などの特色ある高等教育機関の設置に対する積極的支援が考えられます。

多様な価値観を認める 風潮づくり

(1) 若者の持つ県民性への不満とは?

意識調査によれば、若者の多くは富山県の精神風土や行動様式に不満を持っているようです。具体的には、「進学、就職に関する世間の風評の強さ」、「学歴や社会的地位など目に見えるモノの重視」、「遊びや文化に対する社会的評価の低さ」、そして「個人生活への過度の干渉」などがあげられます。



(2) 若者の欲求と富山の精神風土

一般に、富山県人気質として「よく働き、よく貯める」という言葉が用いられますが、この「勤労」と「貯蓄」を重視する精神風土は、まさに「遊び」と「消費」

頂のむこうに
深く厚い大気の襞
沈潜する静謐
ひそむ霊気
混濁を隔てて立つ山魂は
この背を登りくるものへ
悠久に
太古の夢を食んで
いま 在る



立山室堂付近

撮影/谷川昭夫 詩/山本哲也
写真プレゼントについては16ページ参照

Pin
UP
Taste with
ピンナップとやま

城端町

城端町の概要

浄土真宗の名刹善徳寺の門前町としてひらけた。古い歴史と豊かな自然を生き、「香りたかい幸せのまち城端」をめざしている。

桜ヶ池と縄ヶ池周辺は家族の憩いの場として最適。春は縄ヶ池の清楚なミズバショウと神名宮の豪華な曳山祭、秋は善徳寺を中心とした哀調を帯びたむぎや祭が有名。



自然の中で心も体もリフレッシュ!

桜ヶ池公園「自遊の森」



桜ヶ池公園「自遊の森」▶
館長 中田 修さん



▲利用客に評判のコテージ



▲バーベキューが楽しめる
自由自遊家 (ジュウジュウハウス)

南砺地区の灌漑を主な目的とする桜ヶ池。その周辺に広がる公園内に、自然に親しみ自ら遊ぶ森という発想から生まれたのが「自遊の森」である。「時代の流れでしょうが、手軽にアウトドア気分を楽しむ人が増えているようです」と語るのは、「自遊の森」館長の中田修さん。

「自遊の森」には、レストハウス(管理棟)の他、キャンプ場、コテージ、釣り桟橋、テニスコート、体験学習コーナー等が整備されている。コテージは宿泊可能で夏休みには多くの利用客で賑わうそうだ。「特に桜ヶ池の水面に朝日が映える風景が素晴らしいと、宿泊客に評判なんです」と中田さん。

この「自遊の森」に昨年三月、「自由自遊家(ジュウジュウハウス)」がお目見えした。「ここでは、城端町自慢の美味しい牛肉や桜ヶ池周辺でとれた野菜、そして自家製の炭を使って、バーベキューを楽しんでいただけます」もちろん宿泊される方も、日帰りの方も、利用できる。四季を通して若者から家族連れまで楽しめる「自遊の森」に、おいしい施設が加わって今まで以上に楽しさがアップ。家族や気の合う仲間とゆっくりと羽根をのばしに訪れてみてはいかがだろう。

過去と未来を結ぶコントラストの空間へ

城端町史館「蔵回廊」

城端町の歴史にかかわりのあるものや、町にゆかりのある偉大な人物を紹介しているのが、平成五年十一月に開館した城端町史館「蔵回廊」である。

「この建物の基本設計を行ったのは、ペンソン、フォーサイスという二人のイギリス人建築家です。完成したときは、その奇抜な形に驚いたと同時に、とても日本人の発想では考えられないと思いましたね」と館長の伊東豊修さん。旧家の土蔵群の前方を鉄骨の巨大な建造物で現代風に覆っていて、土蔵の前には幅のある回廊が走る。ガラスや金属フレームでモダンな雰囲気をかもしだしている回廊と、土壁や柱が露出し歴史を感じさせる土蔵の内部との間には不思議な融合空間が生まれている。

土蔵内には、城端に関する古い文献や絵地図のほか、先人たちの貴重な陶器や絵画、彫刻などが展示され、城端町の足跡をいながらに知ることができる。「これらの品々を通し、多様な逸材を世に輩出してきた町の歴史を皆さんに紹介していきたいですね」と伊東さんは意欲的だ。

曳山祭りやむぎや祭りで知られる伝統と文化の町、城端。過去と未来をつなぐここ「蔵回廊」で、城端町の今と昔を同時に体験してみたいかがだろう。



▲城端町史館「蔵回廊」
館長 伊東豊修さん



▲展示されている伝統工芸品



▲蔵の内部



▶正面から見た蔵回廊

いつまでも現役でがんばって!

ことぶき 寿 野球



▲城端町野球連盟事務局長
橋本 条雄さん

九人の合計年齢が四百五十歳以上(平成八年からは一人最低四十五歳以上)となるようにチーム編成して行う野球、それが「寿野球」である。

「毎年、長野県で開催される寿野球全国大会に昭和五十七年に初めて参加してみても、是非地元でもやってみようと思い、近隣愛好者と呼びかけました。その年以來、毎年県大会を開催しているんです」と城端町野球連盟事務局長の橋本条雄さん。

毎年県内から参加チームを募集し、九月に城端町を中心とした各会場に分かれて予選を行う。そこで勝ち残ったチームが、翌年四月に城端町で行われる決勝トーナメントに出場する。参加チームは年々増加し、昨年は三十四チームを数えた。

「昔、プロ野球にいた方も、草野球を楽しんできた方も、ユニフォームを着れば皆同じ野球仲間。とにかく野球が大好きなんですよね。夢中になってつい若い頃同様の感覚で動こうとして思わぬ珍プレーになったり、七十歳を超える人が三塁打を放ったり……」と橋本さんはいかにも楽しそうだ。生涯学習・生涯スポーツが叫ばれる昨今、仕事や年齢の枠を超えた寿野球はいつそう盛り上がりつついくに違いない。



▲大勢の野球好きが集う県大会

富山県の 主要プロジェクト

富山県では、平成8年9月28日から10月7日までの10日間にわたり「第11回国民文化祭とやま'96」が開催され、県内において様々な分野の事業が展開されます。



とや丸

マスコットマーク
名前は「とや丸」。特別天然記念物の県の鳥「らいちょう」を、多くの人々に愛され親しまれるキャラクターとしてデザインしています。

第11回 国民文化祭とやま'96 のちとくらし——とやまマンガラ大絵巻

平成8年9月28日(土)→10月7日(月)

国民文化祭とは

「国民文化祭」は、全国各地で一般の方が普段から行っている文化活動を全国的な規模で発表し、競演し、交流する場を提供することにより、広く文化活動への参加の機運を高め、新しい芸術文化の創造を促し、併せて地域文化の振興に寄与することをねらいとして、昭和六十一年度の東京を皮切りに、毎年、各都道府県持ち回りで開催されています。

テーマ

第11回国民文化祭とやま'96のテーマは、「いのちとくらし——とやまマンガラ大絵巻」。

これは、国内外から多くの人が集い、暮らしの中で育まれてきた様々な営みを県下一円にマンガラ大絵巻のように繰り広げ、その成果が私たちに新しい生命の息吹を与えてくれることを願ったものです。

内容

会期中は、県内の各会場で様々なフェスティバルや、シンポジウム、音楽、演劇、伝統芸能、舞踊などの催し、公募作品の展示などが繰り広げられます。

土器の出現と食生活

富山県埋蔵文化財センター所長

桃野 真晃

テレビをつけると料理番組が花盛り。日本人の味のこだわりはいつからはじまったのだろうか。味覚の歴史を追求すると、土器の使用開始と深い関係にあることがわかる。

粘土をこねて容器の形を作って乾燥させ、これを七〇〇〜八五〇℃程度に焼きあげると、ただ乾燥した粘土とは違って、水に溶けない硬く縮まった質の物になる。これが土器である。

日本列島では、今から約一万年前に土器作りが始まった。それ以前の石や木等の道具の製作法は、すべて物理的な加工に限られていたが、土器製作は、化学的な変化を人類が初めて応用した大事件、人類史上の一大革命であった。

この土器の、火熱に強く水が漏らないという性質は、食物を「煮る」ことをはじめに可能にさせた。それまでは、火を使って料理はしても、焼くか、焙るしかできなかった。

土器の用途としては、その他に貯蔵、盛り付けなども考えられるがそれは土器が出現してからかなり後の時期であって、最初の頃は煮炊き用に作られた「深鉢」という、現代の深い鍋にあたる器だけで、底の部分には火熱を受けた二次的な変色や、内外面に煮こぼれの焦げがついていることからその用途がわかる。盛り付け用の浅い容器はそれから数千年後になってようやくあらわれる。最初に土器を使用した人々は煮炊き用としてしか念願になかったのである。

煮沸によって、消化吸収がよくなり、生では不可能だった草や野菜の類のいくつかは食べられるようになった。食物の種類が増え、食用可能な部分も増えることとなった。

煮炊きという行為はまた消毒という効果ももたらした。この煮沸消毒は食中毒や伝染病を多少とも予防したと考えられる。また、煮なおすことで一時的に保存期間を延ばし、賞味期間が長くなったものもあったであろう。

人類は何百万年の長い間、生味を味わった後、数十万年前に火を知って焼き味を覚えた。そして日本人は一万年前に、生味、焼き味とは又一味違う煮味としての「うまみ」を知ることになった。「鍋もの」等の料理は多種の材料の組合せによって、調理の上手下手が重要視されるようになり、嫁の良否の基準の一つに調理の腕が加えられたかもしれない。

「煮物」、「鍋もの」の嗜好は、それにあう調理用具、特に粉状に磨りつぶす道具、器具類の発達を促した。石皿、磨石等がこれだ。トチやクルミ等を磨り潰して粉にし、団子を作った。

貝塚などの遺跡から発見される貝殻、骨、炭化して残っている種子等から、汁物・煮物のメニューを示すと、ハマグリスープ、イノシシスープ、スッポンスープ、干しアワビとワラビの和えもの、シカとキジのごった

鍋、ノウサギすりつぶし団子、ユリ根団子となるであろう。

県埋蔵文化財センターでは六月七日(木)から十月十二日(木)の間、「古代人の食生活」と題した企画展を開催する。この機会に、古代人の知恵

に触れ、太古の昔に思いを馳せていただければ幸いである。



▲小杉町南太閤山Ⅰ遺跡出土 深鉢(煮炊用土器)
ととところ煮こぼれの焦げ跡が見られる。

多彩なステージでPR

● 500日前イベント開催 ●

5月14日、「とや丸プロローグ—国民文化祭とやま'96へのいざない」と題した国民文化祭の500日前イベントが、C i Cビル前広場を中心に行われました。

ステージ上では、立山町の高原保育園児たちのかわいい歌や演奏、福光町のもちつき太鼓の実演、オペラ、高岡第一学園の生徒たちによる創作ダンスなどが繰り広げられ、雨のなか訪れた観客は盛んな拍手を送っていました。また、この国民文化祭のキャンペーン活動などを行う六名の女性が「文化大使」として紹介されたほか、マスコット「とや丸」が初お目見えして会場を沸かせていました。



第55回国民体育大会
テーマ・スローガン募集

第55回国民体育大会富山県準備委員会は、平成12年(西暦2000年)に富山県で開催される国民体育大会の「テーマ」と「スローガン」を広く県内外から募集します。

「テーマ」……誰からも親しまれ呼びやすいこの大会の愛称(ニックネーム)。
「スローガン」……この大会のあるべき姿を簡単に表す。キャッチフレーズ。

応募期間 平成7年6月1日(木)～7月21日(金)
(締切日当日消印有効)

賞 「テーマ」「スローガン」それぞれにつき、
最優秀賞1点 10万円 優秀賞 3点 2万円
応募方法・留意事項

(1)各市町村役場窓口へ届けた応募リーフレットについているはがき(または官製はがき)に「テーマ」「スローガン」を明記し、必ず簡単な説明を付けて加えて下さい。ただし、「テーマ」「スローガン」いずれか1点の応募でも構いません。
(2)住所、氏名、年齢、電話番号、職業、性別を記入して下さい。その他詳しくは、所定の応募リーフレットをご覧ください。
応募・問合せ 〒930 富山市安住町2-14 北日本スクエア5階 第55回国民体育大会富山県準備委員会事務局内
「テーマ・スローガン募集係」 ☎0764-44-9667

立山砂防工事事務所管内見学会参加者募集

建設省立山砂防工事事務所と富山県は、常願寺川上流の砂

脱フロン化のための施設等の整備に要する資金についても、新しく融資対象としましたので、ご利用下さい。

なお、特定フロンやトリクロロエタンは、今年末に生産が全廃されますので、できるだけ早く代替品や代替設備への転換に努めて下さい。

問合せ・申込み 県庁環境政策課 ☎0764-44-3141

第5回あじさい祭

県民公園太閤山ランドにある、約2万株を集めたあじさい園では、今年も「あじさい祭」を開催します。今回は新たに色々な種類のあじさいの写真パネル展示をするほか、恒例のお茶会やモデル撮影会など数多くのイベントも行われます。

日時 6月24日(土)～7月2日(日) (27日は休園)

場所 県民公園太閤山ランド

内容 俳句会、箏曲演奏会、モデル撮影会、お茶会、生花展、苗即売会、あじさいパネル展示、小杉焼展示

問合せ 県民公園太閤山ランド公園管理センター
☎0766-566116

6月は「環境月間」だ。

我が国では、毎年6月5日を「環境の日」、6月を「環境月間」として、事業者及び国民の間に広く環境の保全についての関心と理解を深めるため、多様な行事が実施されます。本県においても、「地球とはもつとなかよくになれるはず」を

防工事現場や流域の状況を皆さんに見ていただき、砂防事業への理解を深めていただくよう、毎年、見学会を実施しています。今年も7月下旬から9月上旬にかけて6回の見学会を実施する予定です。

対象 小学校5年以上65歳以下の県内在住者で、1時間以上の徒歩と乗物に自信のある方

定員 1回当たり40名(申込み多数の場合は抽選)

実施日 第1回 7月26日(水) 予備日 7月28日(金)

第2回 8月2日(水) 8月4日(金)

第3回 8月9日(水) 8月11日(金)

第4回 8月23日(水) 8月25日(金)

第5回 8月30日(水) 9月1日(金)

第6回 9月6日(水) 9月8日(金)

申込み方法 各市町村窓口へ届けた指定往復はがきで申し込んで下さい。

申込み締切 第1、2回 7月10日(月)
第2、3回 7月25日(火)
第3、4回 8月16日(水)

問合せ (社)北陸建設弘済会 ☎0764-23-8561

「富山県優良宅地取得資金融資制度」

申込案内

県では、住宅を建てるために、県または富山県住宅供給公社が造成した団地の宅地を取得する方に対して、低利な資金の融資を行っています。

今年度から、償還期間を20年から25年に延長して利用しやすいものとなりましたので、是非ご利用下さい。

融資の内容は次のとおりです。

- 融資対象団地 太閤山団地(小杉町) 森尻団地(上市町) 月岡西緑町団地(富山市) 上条団地(大門町)
- 融資限度額 250万円
- 融資低率 年4.65%
- 償還期間 25年以内
- 申込受付期間 平成7年5月1日～平成8年2月29日
- 申込受付場所 住宅金融公庫業務取扱金融機関の窓口
- 問合せ 富山県住宅供給公社 ☎0764-32-5131(代) 県庁建築住宅課 ☎0764-44-3355

テーマに環境保全に関する各種行事が行われます。環境にやさしい社会を実現するため、みなさんも日常生活の工夫に努めましょう。

●環境月間ポスターの展示

場所 自然博物館わいの里、主要百貨店

●環境月間記念植樹

場所 いきもの里公園(高岡市)等

●環境月間講演会

日時 6月5日(月) 午後1時30分から

場所 富山県民会館

●電気自動車発表会

日時 6月5日(月) 午前11時

場所 県庁東側広場

●一日環境大学校

日時 6月30日(金) 午後1時30分から

場所 新川文化ホール

問合せ 県庁環境政策課 ☎0764-44-3141

軽油引取税について

◆軽油引取税とは 主にディーゼル車の燃料として使用されている軽油の販売に対して、リットル当たり32円の割合で課税される県税です。

◆軽油引取税の使途は 県内の道路の整備費用にあてられています。

富山県住みよい家づくり資金融資

申込案内

県では、住宅を新築、購入または改良する際に融資を受けることができる、「住みよい家づくり資金」の申し込みを受け付けています。

この制度は、住宅金融公庫の融資制度を利用する方に低利な資金を併わせ貸しするもので、内容は次の通りです。

また、今年度から新築・購入についての償還期間を20年から25年に延長するとともに、20歳未満の3人以上の子と同居されている方、または同居されようとしている方に対して、融資を行う「多子同居住宅」を追加しましたので、ご利用下さい。

(1) 融資利率(適用住宅により3区分)
(ア) 4.65%(老人同居住宅、多子同居住宅等)
(イ) 4.15%(Uターン者等住宅)
(ウ) 3.65%(雪に強い住宅、長寿社会対応住宅等)

(2) 融資額及び償還期間
・新築・購入 500万円以内(25年以内)
・改良・中古 300万円以内(10年以内)

※いずれも住宅金融公庫借入資金の2分の1以内とします。

(3) 申込期間 平成8年2月29日(木)まで

(4) 受付場所 住宅金融公庫業務取扱金融機関の窓口
県住宅供給公社 ☎0764-32-5131
県庁建築住宅課 ☎0764-44-3355

(5) 問合せ 県庁建築住宅課 ☎0764-44-3355

立山博物館特別企画展
「霊山巡詣―立山にみる遊・憂・悠」

江戸時代、立山に参詣した人々の諸国の権那場における立山信仰活動の様子や、立山参詣の道中記録、立山登山の記録及び宿坊の様子などを中心に展示し、当時の庶民生活における信仰活動を紹介いたします。

会期 平成7年6月17日(土)～7月23日(日) (月曜日は休館)

企画展観覧料 一般100円 高・大学生80円 小・中学生50円

問合せ 立山博物館 ☎0764-81-2116

中小企業公害防止施設整備資金の融資対象拡大

県では、県内の中小企業者を対象に公害の防止のために必要な施設の整備等に必要資金を融資していますが、このたび、オゾン層保護対策として、特定フロン等の回収または、

軽油は県内の販売店で購入しましょう。なお、詳しくは、最寄りの県税事務所へおたずねください。

所得税・住民税の特別減税について

今年も昨年に引き続き、平成7年分の所得税及び平成7年度分の個人住民税について、次のとおり特別減税が実施されます。

1、特別減税の額

(1) 所得税：平成7年分の所得税額の15%相当額(最高50千円)

(2) 個人住民税：平成7年度分の個人住民税所得額の15%相当額(最高20千円)

2、実施の時期及び方法

(1) 所得税 (ア) 給与所得者：1月から6月までの給与等の源泉徴収税額の15%相当額(最高25千円)を、原則として6月に還付し、残額は年末調査の際に控除されます。

(イ) 事業所得者：確定申告の際に控除されます。なお、予定納税基準額の計算に際しては特別減税額を加味することとなります。

(2) 個人住民税 (ア) 給与所得者：均等割額・所得割額ともに6月分を徴収せず、特別減税額控除後の年税額を7月から翌年5月までの11カ月間で徴収されます。

(イ) 事業所得者：6月分(第一期)において特別減税額が控除されます。

なお、詳しくは、最寄りの税務署または市町村役場へお尋ねください。

みなさんの相談窓口

- 県政について 県民相談室 富山市新総曲輪1-7(県庁内) ☎(0764)31-4111(代) 31-3131(県民相談電話)
- 高岡地方県民相談室 高岡市赤祖父211(総合庁舎内) ☎(0766)21-9411(代)
- 魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7(総合庁舎内) ☎(0765)24-5311(代)
- 砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7(総合庁舎内) ☎(0763)33-5151(代)

- 物価ダイヤル 物価に関する苦情や相談があればお気軽にお電話ください。☎(0120)16-7400(県庁県民生活課内)
- 消費生活については 消費生活センター 富山市安住町7-18 安住町第一生命ビル内 (一般相談は) ☎(0764)32-9233 (金融相談は) ☎(0764)32-3252
- 消費生活センター高岡支所 高岡市本丸町7-1 本丸会館内 ☎(0766)25-2777
- 交通事故については 富山県交通事故相談所東別館1階 ☎(0764)31-4111 内4400
- 相談110番 家庭問題・悪質商法・覚せい剤など、どんな相談にも応じます。☎(0764)42-0110
- シルバー110番 高齢者や家族の心配ごと、悩みごとに富山県高齢者総合相談センター 富山市舟橋南町5-14 社会福祉会館内 ☎(0764)41-4110
- よい子の育児電話相談 子育てに関して心配や悩みはありませんか。どんなことでもお気軽にお電話ください。☎(0764)33-4150(県庁生涯学習室内)

県からのホットニュース

- 見て、聞いて、ご意見をお寄せください。
- テレビ広報
 - チューリップテレビ 毎週土曜日 AM9:25～9:40 「ふるさとトーク」
 - 富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00～9:30 「112万人のひろば-クイズ/フォーカス-イン」
 - 北日本放送 毎週日曜日 AM11:00～11:30 「こんにちは富山県です」
6/4 私たちのふるさとづくり ～庄川町～
6/11 活躍する生涯スポーツ指導者
6/18 明日の森林づくり ～林業担い手対策～
6/25 ブラジルの昨日、今日、明日
- ラジオ広報
 - FMとやま「ふれあいホットライン」 県内各地からホットな話題をクリアなサウンドでおとどけます。毎週月～金曜日 AM9:50～9:55
 - 新聞広報
 - 北日本、富山、読売、北陸中日、朝日、毎日 毎月第2、最終土曜日 「県からのお知らせ」

平成7年7月街頭献血日程

日曜日	献血場所	時間
2日	小杉町「バスコ」ショッピングセンター前	10:00～16:00
6日	福野町役場前	12:30～16:00
9日	高岡市役所中田支所前	10:00～15:00
11日	入善町役場前	12:30～16:00
13日	朝日町役場前	9:30～12:00
16日	富山西武デパート前	10:00～16:30
23日	氷見市「ハッピータウン氷見店」前	10:00～16:00
25日	黒部市役所前	9:30～12:00
29日	JR富山駅前	10:00～16:30
30日	砺波市「ジャスコ砺波店」ショッピングセンター前	10:00～16:00

※都合により変更する場合がありますので、当日の新聞・テレビの街頭献血案内等でご確認ください。
◎富山県赤十字血液センターでは、毎土曜日及び第2・第4日曜日にも開所し(祝祭日除く)、献血を受け付けています。(受付時間9:00～16:45)
富山県赤十字血液センター 富山市坂野26-1 TEL(0764)51-5555

六月

ひとつやいと

高岡市

よまの双事記



身を焼いて 病をはらう

高岡市の瑞竜寺では、六月一日と七月一日、ひざにお灸をしてもらい無病息災を願う「ひとつやいと」が行われる。

東の空が白み始める午前五時頃、本堂内は足の踏み場もないほどの人々でこったがえしている。住職が読経を始めると、集まった老若男女たちも一心に念仏を唱える。それが終わると人々はひざ小僧を出し、法堂と大茶堂を結び高廊下に並ぶ。

やがて、黒衣をまとった僧がもぐさと線香を持ち、集まった人々の「ひざのつぼ」にもぐさを据え火を付けて回る。人々はその熱さに思わず顔を歪めながらも、無病息災を祈る。お灸を終えるとその効能からか、疲れがとれ体も軽く感じられるようになるという。

この行事、約三百年前に雲水たちが日々の厳しい修行に耐え、健康を守るために、お互いの足に灸を据えたことが始まりだといわれる。かつて、県内や石川県のお寺では盛んに行われていたのだが、現在ではこの瑞竜寺と氷見の東泉寺にのみ残っている。

今や全国的にも有名な「ひとつやいと」。人々は忙しかつた田植え仕事などの日頃の疲れを癒し、来るべき夏にそなえる。

暮らしのQ&A



みーんな 木々夫!

お答えします 暮らしの中でのちよっとした疑問

Q グリンピースご飯を炊いたら、豆とご飯がピンク色になりましたが、大丈夫でしょうか？

A これは、グリンピースに含まれるアントシアニン系やフラボノイド系の天然色素によるもので、特に心配はいりません。このような現象は、枝豆やそら豆でも起こります。また、水のPH、鍋の素材、豆に含まれる他の成分等の関係で、ピンク色以外の色になることもあります。

Q 保存中の砂糖が黄色に変色していましたが、まだ使えますか？

A これは、砂糖の製造過程で極微量に残る原料（さとうきびやさとう大根）が持っているアミノ酸が、長く保存している間に糖と反応（メイラード反応）して黄色みを帯びるのです。黄色に変色した砂糖は、そのまま使用しても害はありません。また、料理などで使用しても味が変わったり、甘味が低下したりすることはありません。

Q 重曹で鍋を洗うと汚れがとれると聞きましたが、本当ですか？

A 重曹（炭酸水素ナトリウム）は、ふくらし粉とも称され、膨張作用を持っています。鍋などの焦げついた汚れを落とすには、焦げついた部分に重曹をふりかけ、水を少し加えて一、二分火にかけてふやかします。そのまましばらくして焦げついた部分が少し剥れてきたら、たわしなどでこすり落とすと良いようです。

相談は、県消費生活センター、電話0764(32)92333、高岡支所、電話0766(25)2777

編集後記

★高さ四十六メートルのマストのてっぺん。想像しただけでも足がすくむ。そんな高さにも登ることがあるという海王丸展帆ボランティアの阿部さん。「最近景色を見渡す余裕ができました。マストで海風に吹かれながら見る立山連峰はまた格別ですよ」とのこと。うーん、体験してみたいなあ。でも、やっぱり想像だけで我慢しておこう。(K)

★寿野球の世話人の橋本さんを訪ね、いろいろお話をうかがった。野球の話題になると本当に楽しそうに話しておられたのが印象的だった。ところで皆さんは、何かスポーツをしていますか？私はいまあまり体を動かさなくなっているのですが、これを機会に何かに取り組んでみよう!と思っただけが続くかな。(A)

★本誌先月号の編集後記に(Y)の文がないというところで、一年で降ろされたのかと思われた方がいたかもしれません。どっさり私は健在です。ただ、担当コーナーが「ふるさとみである記」から、「とやまの祭事記」に変わりました。文章力が要求されるこのコーナーは私にピッタリ……かな?!(Y)

今月号で掲載したPIN UP TOYAMAの写真を選定で5名の方にワイド六ツ切(25×18センチ)でプレゼントします。希望される方は、官製ハガキで下記の様式でお申し込みください。7月24日消印有効です。

930 80	富山県広報課 写真プレゼント 6月号係あて
氏名	
住所	
電話	
本誌を読んだ感想	

いに歯 カムカム すこやか富山

県では、「富山県歯の健康プラン」に基づき、80歳で20本以上自分の歯を保つことを目指した「ハチマルニイマル8020運動」を推進しています。



6月4日～10日は“歯の衛生週間”です。

- 毎月第2土曜日を“家庭ふれあいむし歯予防デー”と設定しました。家族ぐるみで歯の健康づくり習慣を身につけましょう。
- 県歯科保健医療総合センターでは、歯科保健ライブラリーを開設し、ビデオやスライド、模型、図書の貸し出しを行っています。どうぞご利用下さい。

お問合せ 県歯科保健医療総合センター
富山市五福五味原 2741-2 ☎ 0764-33-2039